

産業建設常任委員会 意見交換会報告

去る2月3日開催の、一般社団法人
白山市観光連盟の皆様との意見交換会につ
いて、その概要を報告します。

当日は、白山市観光連盟の村山理事長を
はじめ、12名の役員の方々に御出席いた
だき、「白山手取川ジオパークを活かした、こ
れからの観光戦略について」をテーマとし
て意見交換を行いました。

その中で、主な意見5点について述べさ
せていただきます。

まず、1点目、ジオパークのPR方法に
ついてです。白山市にある様々な特産品は
ジオパークによる恵みを受けており、それ
らの商品をジオと関連づけていくことも民
間事業者である我々にできることではな
いかとのことでした。また、事業者の方にと
っては何気ない、特産品を作る過程にジオ

の要素があったり、地域の自然環境に応じた商品自体がジオだという指摘をユネスコの方から頂いたという実際の体験談を伺うことができました。

白山手取川ジオパークのテーマの1つである「水の旅」に関連して、ほかの地域ではなかなかない、白山からもたらされたおいしい水が豊富にあります。この水が全ての恵みの元となっているというストーリーをブランド化することで、白山市の特産品と結びつけていければいいのではないかという意見もありました。

そして、**ジオパークとエコパークの重複エリアがある日本でも数少ない地域であるため、ジオパークだけではなくエコパークも白山市とより関連づけてアピールできないのか**とのことでした。

2点目は、ジオパークの認知度向上についてです。白山手取川ジオパークがユネス

コ世界ジオパークに認定されてから3年がたとうとしていますが、観光連盟の皆様の印象としては、いまだにジオパークはよく分からない、難しくて取っつきにくいと感じている方が多いとのことでした。また、PRの方法としてインフルエンサーなどのSNSの効果を感じておられました。

委員からも、ジオパークの認知度はいまだ低いため、市全体で一丸となって行っていく必要があるのではないかという強い意見がありました。

3点目は、白山市への宿泊についてです。白山市での宿泊者数は季節によって波があり、団体客や修学旅行客は白山市に宿泊せず通過してしまう傾向があります。白山手取川ジオパークはSDGsの宝庫で、白山ろく的生活にも自然と共存する知識がたくさん詰まっていることから、修学旅行としても満足度が高い内容であり、1年を通じ

てコンスタントに来てもらえる体制をつくることできれば、宿泊者数を大きく伸ばせる余地があるため、平日空いている傾向にある宿泊施設に修学旅行客などを誘致できればよいのではないかという意見がありました。

4点目は、インバウンド対応についてです。昨今のインバウンド客は、大自然の中にある田舎での伝統文化体験などに目が向き始めており、白山の大自然と伝統文化は今後生かせる余地があるため、その部分にぜひスポットを当ててほしいとのことでした。

また、言語対応や免税手続きなどについては試行錯誤しながら対応されていますが、市役所や商工会議所等と情報共有を行い、相談体制を確立することで対応しやすくなるのではないかとの意見がありました。

5点目として、白山白川郷ホワイトロードは年々利用客が減少しているが、来年、開通50周年を迎えるため盛り上げていきたいという意見や、一里野温泉の引湯管の早期復旧を求める強い要望がありました。

今回の意見交換会では、観光連盟の皆様方から事業者としての意見も伺うことができました。白山市民や白山市に来られる観光客、ひいては移住・定住したいという方々のために、観光連盟、市、議会ともに一丸となって白山市の観光推進のために努めていくべきだと強く考えます。

以上で、産業建設常任委員会の委員長報告を終わります。